J-LEAP 15周年記念シンポジウム

米国の 日本語教育から考える 人を育てる言語教育

AI時代に私たちはなぜことばを教えるのか

生成AIの普及により、ことばを取り巻く環境が変わりつつあります。私たちは今、なぜ外国語を学び、教えるのでしょうか。本シンポジウムでは、米国の日本語教育の実践を手がかりに、学習者の成長と他者や社会とのつながりを育む言語教育の価値、そしてこれからの教師の役割を考えます。

J-LEAP
米国若手日本語教員

参加無料
先着 定員 100名
※事前申込

第１部　基調講演

KEYNOTE 01

人を育て、社会につなぐ 米国での日本語教育

齋藤-アボット 佳子 / ジョーダン・貞・アン

ことばを教えることにとどまらず、人間形成にもつながる言語教育の価値と、その意義を広く伝えていくことの重要性について、米国における日本語教育の実践を通して考える。

KEYNOTE 02

AIとヒューマニティーの共演

相川 孝子

AIによる自動翻訳・通訳技術の進歩が進み、AIが「言語の壁」を取り払いつつある。本講演では、「AI時代に、なぜ外国語を学ばなければいけないのか」という課題について様々な角度から、考察してみる。

第２部　パネルディスカッション

テーマ

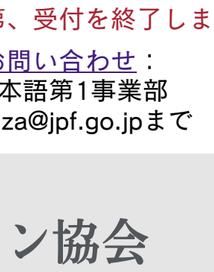
米国の日本語教育とともに考える

言語教育のいまとこれから

基調講演の登壇者3名をパネリストに迎え、米国の日本語教育の実践を手がかりに、参加者の関心事項や会場からの質問を取り上げながら、これからの言語教育の課題と可能性、教師の役割について意見を交わします。

モデレーター

国際交流基金
日本語国際センター所長



佐藤 郡衛

登壇者・パネリスト



齋藤-アボット 佳子
カリフォルニア州立大学
モントレーベイ校 教授
元全米日本語教育学会会長
J-LEAPトレーナー



ジョーダン・貞・アン
ローラシアン協会
J-LEAP専属トレーナー
元全米日本語教育学会会長
元カリフォルニア州
ロスガトス高校日本語教師



相川 孝子
マサチューセッツ工科大学
Global Languages
シニアー・レクチャラー

米国の日本語教育の最前線から
実践的な知見と未来の可能性を共有する
貴重な機会です。
皆様のご参加お待ちしております。

2026
12.19. 土
14：00〜17：00（開場：13:30〜）

会場
赤坂インターシティコンファレンス（東京）
シンポジウム：4F［401］
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1
赤坂インターシティAIR　（アクセスマップ）

対象
日本語教師・外国語教員・大学教員など、言語教育に携わる方、言語教育に関心のある方など

お申込みはこちら
左のQRコードまたは
下記URLよりお申し込みください。
https://forms.cloud.microsoft/r/Mag7G9sfW1
※定員に達し次第、受付を終了します。
キャンセルなどお問い合わせ：
国際交流基金　日本語第1事業部
J-LEAP担当 jfkouza@jpf.go.jpまで

JAPANFOUNDATION 国際交流基金
主催：独立行政法人国際交流基金
https://www.jpf.go.jp

LAURASIAN INSTITUTION
共催：ローラシアン協会
https://www.laurasian.org/